

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

入学生に対して、1泊2日の「新入生オリエンテーション」を開催し、本校のすべてのガイダンスを行うとともに、学生相互・教職員と学生の親睦を図っている。この中で、本校各学科の紹介と、授業内容の紹介を行っている。3年生までの低学年では毎週「特別活動」1単位があり、そこでも、担任による、その都度の学習に対するアドバイスが行われている。

また、新しい新学期のすべての授業の最初の授業において、その科目のガイダンスを実施している。これにより、学生はその科目の学習目的と学習方法、スケジュールが理解できるようになっている。これらはシラバスに明記されている(資料7-1-①-1, 別添「シラバス」M-35頁)。

また、各教員のオフィスアワーが各学科・教室のホームページ及び掲示板に掲載されており、それを学生が見ることにより、教員の研究室を訪ね、質問を行っている(資料7-1-①-2)。

(資料7-1-①-2)

「各教員のオフィスアワーの例」

2005年度 前期 福井高専 機械工学科 オフィスアワー					
スタッフ	場所	曜日	時間帯	担当科目(前期)	
阪口 健一	機械工学科棟 2階	金	12:10-13:00	(3M) 材料力学I (3M) 機械設計製図I (4M) 材料力学II (5M) 機械工学実験II (1PS) 生産システム工学実験	
井上 清一	専攻科棟 2階	月	16:15-17:15	(5M) 自動制御 (専1) 創造デザイン演習 (2PS) 人間・機械システム (専2) ものづくり情報工学	
安丸 尚樹	機械工学科棟 2階	火	16:15-17:15	(2M) 機械製図II (3M) 材料学II (5M) 機械工学実験II (1PS) 生産材料工学 (1PS) 生産システム工学実験I (専2) 先端材料工学	
吉崎 保夫	機械工学科棟 2階	水	16:10-17:15	(3M) 創造工学演習 (4M) 機械設計法 (4M) 機構学 (5M) 電子応用	
田中 嘉津彦	機械工学科棟 3階	火	16:15-17:15	(4M) センサ工学 (4E,ED) 機械工学概論 (5M) 振動工学 (5M) 機械工学実験II (1PS) トライボロジー	

(出典 ウェブページ)

(分析結果とその根拠理由)

学習ガイダンスは各授業の最初の授業で懇切丁寧に行っていることにより、学生は各授業の目的、学習法を十分理解するガイダンスが行われていると思われる。また、学生の自主的学習に対応して、オフィスアワーを設定し、多くの学生が教員に相談に訪れている。これらの成果により、最近、5カ年の進学者は約5割を維持し、次第に増加している。就職の求人倍率も好調である。

観点7-1-②： 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。）及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

学生の自主的学習環境としては、「総合情報処理センター」、「ものづくりアトリエ」、「図書館」等があげられる。

総合情報処理センターには演習室が4室あり、そのうちの3室に1クラスの学生数を超える台数のパソコンが設置されている。パソコンはすべてネットワークに接続されており、教員が教材を一斉に配布でき、学生の達成状況も把握できる学習支援システムが利用できる(資料7-1-②-1)。

(資料7-1-②-1)

「総合情報処理センターを用いた授業」

演習室の授業利用と一般使用時間

平成17年度前期授業利用状況と一般使用

曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
月	1	3E1 電子回路Ⅰ	使用可能	4E1 電子情報工学実験Ⅳ	4B 数値解析
	2	1F2 コンピュータ科学入門		使用可能	4B 環境都市工学実験実習Ⅳ
	3	1F1 コンピュータ科学入門		使用可能	
	4	使用可能			
火	1	1F4 コンピュータ科学入門	4M 知能機械演習	4E1 情報構造論	使用可能
	2	1F3 コンピュータ科学入門	使用可能	4E1 電子回路Ⅱ	
	3	使用可能	使用可能	3E1 電子情報工学実験Ⅲ	2B コンピュータグラフィクス
	4				5B 空間情報工学
水	1	2M C言語基礎	2E1 電子情報工学実験Ⅱ	2E1 電子情報工学実験Ⅱ	3B 環境都市工学実験実習Ⅲ
	2	4M 機械計算力学	使用可能	使用可能	5B 環境都市工学設計製図Ⅲ
	3	3C 情報処理演習			
	4	使用可能		AD 総合学習	
木	1	1F5 コンピュータ科学入門	5M 機械工学実験Ⅱ	2C プログラミング基礎	5B 環境都市工学設計製図Ⅱ
	2	4C 情報化学	1ALL ものづくり	使用可能	4B 環境都市工学設計製図Ⅰ
	3	3M 国語		1ALL ものづくり	1ALL ものづくり
	4	〈会議〉	〈会議〉	〈会議〉	〈会議〉
金	1	1ALL ものづくり	2M 機械工作実習Ⅱ	1ALL ものづくり	1ALL ものづくり
	2	2E 情報処理Ⅰ		4E1 システム設計	3B コンピュータ図学

(出典 ウェブページ)

図書館は、学習に必要な専門書をはじめ、一般教養図書及び新聞・雑誌を多数備えている。平日は20時まで、土曜日は16時30分まで開館している。その現状は、図書館のホームページにおいて開示されている。

(資料7-1-②-2)は、平成17年6月に全学生を対象に調べた、放課後の自主学習スペースである。これによれば、教室が自主学習の場所として最も多く用いられている。本校は校舎の改修が

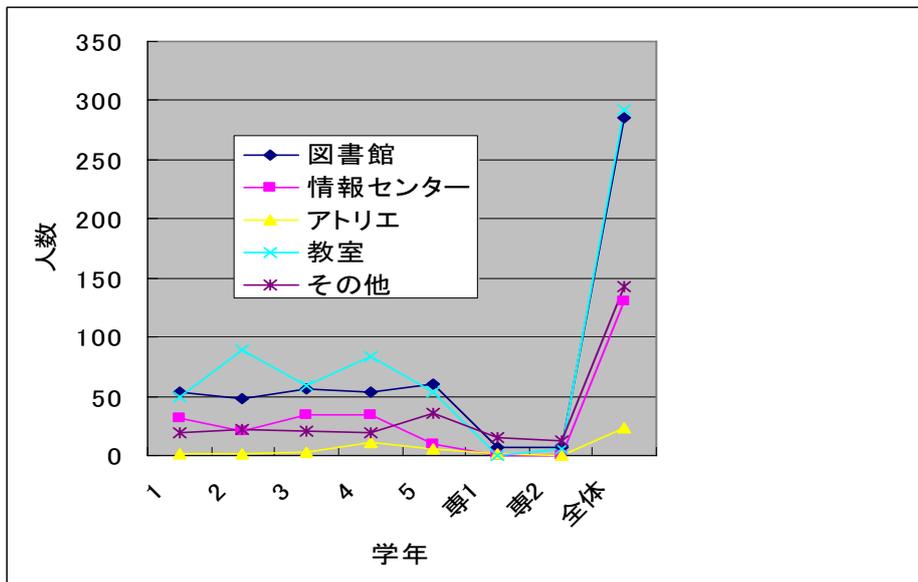
未だ成されていないが、改修後、教室の冷房設備が完備されれば、もっと多くの学生が自習に教室を用いるとの学生の意見もあった。

また、本校では、学生の学習・生活を支援する本校の施設に対する学生の満足度も定期的にアンケートによって把握し、施設整備委員会、図書委員会などの関係委員会で審議し、対策を講じている。

平成17年6月に実施した、学生支援アンケートを（資料7-1-②-3）に示す。これによれば、低学年では、食堂・売店の充実を願う学生が多く、高学年では駐車場、卒業研究スペースの充実を望んでいる。さらに、改修により、教室の冷房設備をつけて欲しいとの希望が圧倒的に多い。

（資料7-1-②-2）

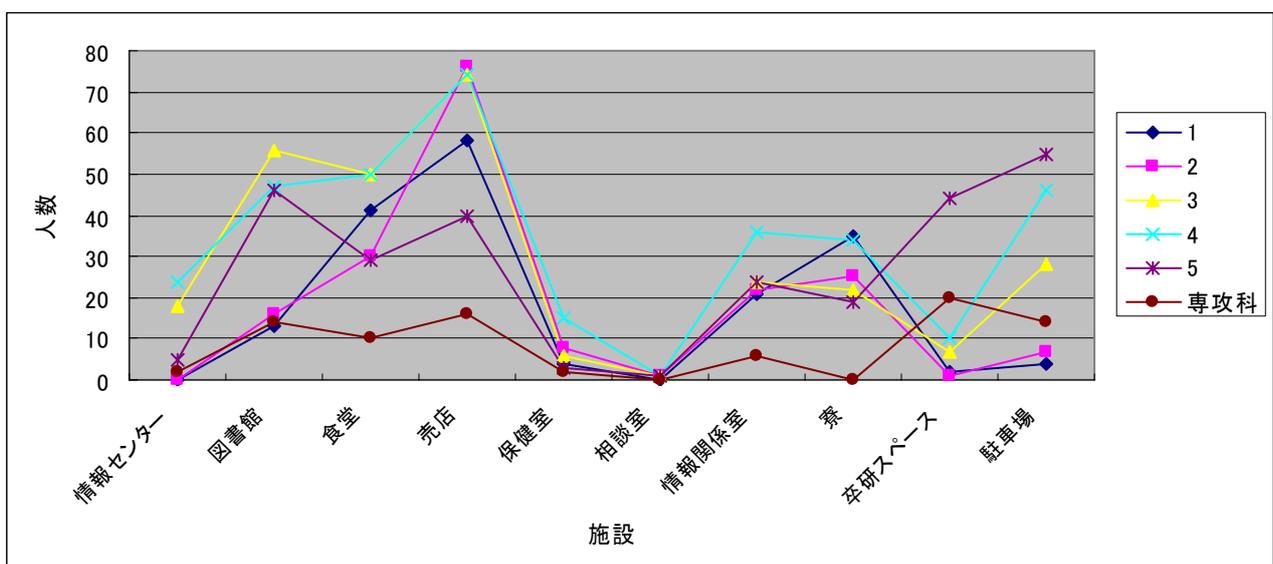
「学生の放課後の自主学習スペース」



（出典 教員会議資料）

（資料7-1-②-3）

「学生支援アンケート結果、今後充実して欲しい施設」



（出典 教員会議資料）

(分析結果とその根拠理由)

情報処理施設，図書館は毎日，多くの授業に使用されている。また，放課後の自主学習にも毎日多くの多くの学生が利用している。

学生の生活を支援する学寮，食堂，売店なども設置されている。学生の生活支援調査も毎年行っており，教室の冷房設備，食堂・売店などの充実を望む学生も多い。

観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば，資格試験や検定試験受講，外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

(観点に係る状況)

近年，いわゆる資格社会となり，学生は将来の進路を考え様々な資格の取得を考えている。そこで，本校は全学生の資格取得の希望状況をアンケート調査によりその把握に努めている。(資料7-1-③-1)は平成17年6月に実施した，学生が現在取得している資格と今後取りたい資格の一覧である。本校では学生が取得を希望する資格取得についてできるだけの支援を行っている。

(資料7-1-③-1)

「本校学生が現在所取得している資格と今後取得を希望する資格」

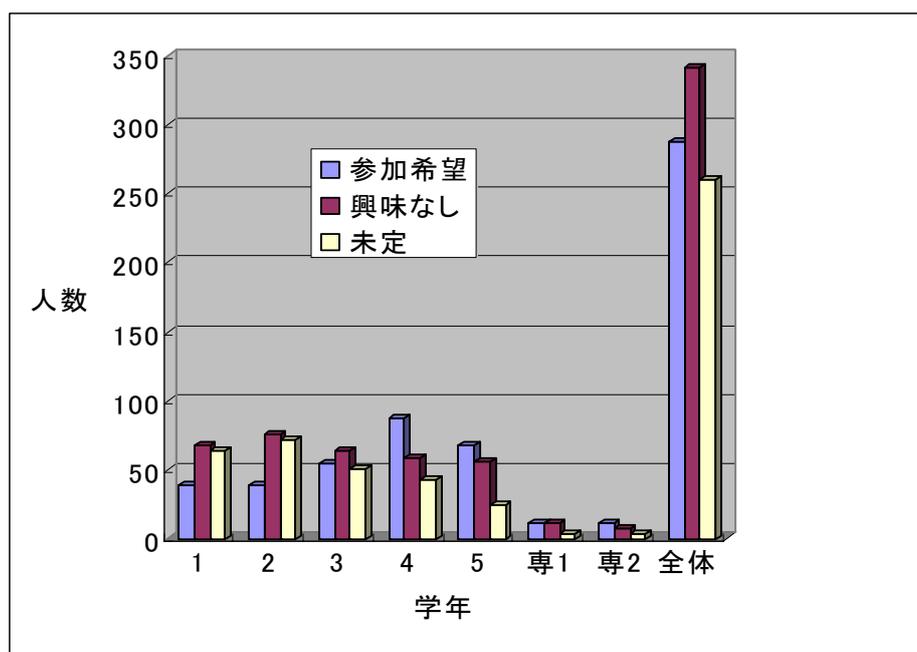
学年	現在持っている資格	今後取りたい資格
1年生	英検3級 5人 英検4級 3人 漢字検定準2級3人 歴史検定4級5人 数学検定4級4人	測量士補 3人 CAD2級 5人 電気工事士 X線主任技術者 パソコン検定 初級シスアド(システムアドミニストレーター)2人 TOEIC, 危険物2種4級2人 土木施工技術者 ワープロ検定
2年生	危険物乙4種 アマチュア無線技師 英検準2級 ピアノ検定, 書道3段 英検3級	インテリアコーディネーターボイラー資格3人 公害 防止毒物劇物 英検3級 漢検工業英検 デジタル 検定電気工事士 電験3種 実用英検 情報処理技術 者 シスアドCG検定 測量士補
3年生	英検3級 珠算2級 デジタル検定4級 漢検3級, 珠算2段 工業英検3級 測量士補	情報処理技術者試験 シスアド5人 CG検定4人 電 気工事士2人 TOEIC 画像処理検定3人 電験3種 技術士1次 初級シスアド
4年生	英検準2級3人 第2種電気工事士3人 工業英検3級2人 危険物乙4級 CAD2 級2人 危険物丙種2人 3人 ビジネ ス能力検定3級 シスアド	電気工事士 電験 工業英検 第3種電気主任技術者 TOEIC 自動車免許 CAD2級 建築士3人 技術士 ビオトープ計画管理士2級 カラーコーディネーター 気象予報士 機械設計技術者3級 小型船舶操縦2級 放射線取り扱い 基本情報技術者 ソフトウェア開発
5年生	CAD2級5人 3級4人 英検3級2人 危険物乙4種3人 機械設計技術者試験 3級 工業英検2級, 3級, 4級 情報処理二種 基本情報技術者2人 デジタル検定2級	色彩 技術士 CAD 弁理士 シスアド3人 ボイラ ー危険物取扱乙全種 機械設計技術者試験 パソコン 検定1級 整備士 測量士 土木施工管理士 建築士 第1種電気工事士 工業英検 CAD利用技術検定 教員免許 TOEIC400点以上3人 500点以上2人 公務員試験 公害防止管理者 医療事務 ソフトウエ ア開発 アプリケーションエンジニア テクニカルエ ンジンニアネットワーク 画像処理検定
専攻科 1年	TOEIC300-350 4人 350-450 8人 500以上1人 危険物全種 2級ボイラー CAD2級2人 英検準2級	家電エンジニア 独語検定 毒物劇物取り扱い検定 CAD利用設計技術者 電気工事士 国家公務員 火薬取り扱い
専攻科 2年	TOEIC300-350 6人 350-450 13人 450以上 3人 500以上1人 シスアド2人 X線作業主任者 基本情報技術者試験2人	TOEIC400以上5名 技術士

(出典 教員会議資料)

また、本校の留学制度として、現在、海外学生派遣制度があるが、今年度より、本校はオーストラリアのBallarat大学との間で相互学生交換留学制度の締結を準備中である。この制度を用いて留学希望の有無についてアンケート調査を行った結果が（資料7-1-③-2）である。今後、この学生の希望に応じて行きたい。

（資料7-1-③-2）

「留学を希望する学生数」



（出典 教員会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生が現在取得している資格と、今後取得したい資格の希望をアンケート調査によりその的確な把握に努めている。

観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

英語検定関係については、実用英検と工業英検の説明を行い、希望学生の把握及びガイダンスを行い、取得の支援にあたっている（資料7-1-④-1，別添「シラバス」G-07頁）。また、専攻科ではTOEIC 400点以上取得を修了要件としているので、専攻科委員が常に専攻科在校生のTOEIC点数の取得状況を把握している。

さらに、資格を取得した学生については、本校内規である「教務に関する申し合わせ事項」第24（資料7-1-④-2）のように、単位認定が明記され、正規の単位への振替え制度が出来ている。

(資料7-1-④-2)

「技能審査の合格による単位の修得に関する事項」

第24 技能審査の合格による単位の修得認定に関する事項

(平成6年12月15日制定)

1 技能審査の定義

「技能審査」とは、福井工業高等専門学校学則（昭和40年規則第1号）第15条の3第1項に定める学修に基づくもので、文部省告示第85号（平成3年6月28日）第4項に規定する学修のうち、本校において次のものをいう。

ア 実用英語技能検定（以下「実用英検」という。）

イ 工業英語能力検定（以下「工業英検」という。）

2 技能審査の合格による認定単位数

(1) 技能審査に係る次の審査基準（級）に合格した者には、単位の修得を認定し、修得を認定する単位（以下「修得認定単位」という。）は、審査基準（級）に対応するそれぞれの単位数とする。

ア 実用英検の合格による認定単位数

審査基準（級）	準2級	2級	準1級	1級
単位数	1	2	4	6

イ 工業英検の合格による認定単位数

審査基準（級）	4級	3級	2級	1級
単位数	1	2	4	6

(2) (1)において、実用英検にあつては審査基準（級）の準2級、工業英検にあつては審査基準（級）の4級については、第1学年から第3学年までに合格した者に限るものとする。

(3) 技能審査に合格し、単位の修得を認定されている者が当該技能審査に係る上位の審査基準（級）に合格した場合は、当該審査基準（級）に対応する単位数と既に認定されている修得単位数との差を修得単位数として認定する。

(4) 修得認定単位は、技能審査に合格した日に在籍する学年の修得単位とする。

(5) 修得認定単位は、卒業要件の修得単位数に含めないものとする。

3 修得認定単位に係る科目名

修得認定単位に係る科目名は、実用英検にあつては一般科目の「実用英語技能検定〇級」と、工業英検にあつては専門科目の「工業英語能力検定〇級」とする。ただし、両科目とも選択科目とする。

(出典 教務に関する申し合わせ事項)

また、学生の海外派遣については、教員帯同のもと、外国への学会発表、インターンシップを行う制度の規則を制定して実施している（資料 7-1-④-3）。最近の実施例を（資料 7-1-④-4）に示す。また、平成 17 年度よりオーストラリア、メルボルン近郊の総合大学である、Ballarat 大学と相互交換留学生制度を始めることとなっており、現在、その準備を進めている（資料 7-1-④-5）。

（資料 7-1-④-3）

「学生海外派遣実施要領」

第 4 編 その他 **（福井工業高等専門学校職員・学生海外派遣実施要領）**

○福井工業高等専門学校職員・学生海外派遣実施要領

（平成 7 年 11 月 16 日）
制 定

改正 平成 10 年 6 月 11 日 平成 16 年 6 月 3 日

（趣旨）

第 1 福井工業高等専門学校職員・学生海外派遣制度実施要項（以下「要項」という。）の実施に関し必要な事項は、この要領の定めるところによる。

（候補者調査等）

第 2 要項第 4 に規定する海外学生引率計画書及び学生海外派遣計画書はそれぞれ別紙様式第 1 号及び別紙様式第 2 号のとおりとする。

（派遣期間）

第 3 派遣期間は、海外事情視察等に要する日数に視察地への往復に要する日数を加えたものとする。

（経費）

第 4 要項第 6 に規定する経費は次のとおりとする。ただし、派遣職員については、これによると著しく経済的負担がかかると認められる場合は前項に規定する派遣期間に応じた日当を支給することができるものとする。

(1) 派遣職員 次に定める航空賃及び宿泊料

ア 航空賃

原則として、国内の最寄りの国際空港から派遣地の最寄りの国際空港までの最も経済的な経路による下級の往復運賃

ただし、これによると派遣職員に著しく経済的負担がかかると認められる場合は国内の最寄りの国際空港から派遣地の最寄りの空港までとすることができる。

イ 宿泊料

派遣学生の引率に要する日数の宿泊料

(2) 派遣学生 一人につき 150,000円

（報告書）

D
〔福井高専三三三〕
一一三三三

1133

（出典 福井工業高等専門学校規則集）

(資料 7-1-④-4)

「学生海外派遣制度による最近の実施例」

年度	学科・学年	氏名	引率教員	派遣期間	派遣機関(国名)
8	環境都市工学科 3年	田中宏弥	一般科目 助教授 小寺光雄	9. 3. 25 ～9. 4. 3	オックスフォード大学 ほか (連合王国)
	環境都市工学科 3年	山下理恵			
9	電気工学科 3年	松浦 徹	電気工学科 教授 松田政信	9. 7. 22 ～9. 7. 31	スタンフォード大学 ほか (米 国)
	電気工学科 3年	山内智教			
	電気工学科 3年	吉村雄大			
10	電気工学科 3年	勝木浩司	電気工学科 助教授 大久保 茂	10. 7. 18 ～10. 7. 27	ロンドン大学 ほか (連合王国)
	電気工学科 3年	前田一平			
11	機械工学科 3年	林 巧	一般科目 教授 朝倉相一	11. 9. 30 ～11. 10. 9	カリフォルニア大学 ほか (米 国)
	機械工学科 3年	高橋里枝			
	電気工学科 3年	伊藤貢一			
12	物質工学科 5年	後藤亮平	一般科目 助教授 山本裕之	12. 8. 19 ～12. 8. 29	ガラパゴス諸島 (エクアドル)
13	電気工学科 4年	武内良峰	一般科目 助教授 戸島貴代志	13. 8. 19 ～13. 8. 28	風の学校 ほか (デンマーク, ドイツ)
	電気工学科 4年	城野啓太			
16	環境システム工学 専攻 5年	吉田達哉	環境都市工学科 助教授 辻子裕二	16. 4. 29 ～16. 5. 9	中国科学院 ほか (中 国)

(出典 庶務課)

(資料 7-1-④-5)

「交換留学生制度の準備資料」

From: "Margaret Zeegers" <m.zeegers@ballarat.edu.au>**Date:** 2005.5.21 11:53:03 Japan**To:** <tubokawa@fukui-nct.ac.jp>**Subject:** Re: Exchange student program between Ballarat Univ. and Fukui NCT

I cannot tell you how pleased I am to have this contact with you, at last. We have both been very fortunate in our mutual friend, in Max. One of our sessional lecturers has almost finalised the program and costings, so we should be able to get something definite together very soon. He is suggesting April of 2006 as a most suitable time, with end-on tours in other parts of Australia as part of the itinerary. Does that sound all right to you?

Cheers

mz

Dr Margaret Zeegers
Lecturer
School of Education
University of Ballarat
University Drive
Mt Helen
Victoria
Australia, 3363

Ph: + 61 3 5327 9327

Fax: + 61 3 5327 9717

email: m.zeegers@ballarat.edu.au

(出典 交換留学準備委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

資格取得者に対する支援は一般科目教室，各専門学科で実施しており，入学者募集の際も，本校の魅力の一つとして紹介している。今後，海外学生交換留学制度を充実させ，多くの留学を希望する学生の期待に応えたい。

観点7-1-⑤： 特別な学習支援が必要な者（例えば，留学生，編入学生，社会人学生，障害を持つ学生等が考えられる。）がいる場合には，学習支援体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

平成17年度の在籍留学生を（資料7-1-⑤-1）に示す。これら，海外からの留学生に対し，留学生委員会を設置し，一人一人の留学生に対し指導教員およびチューターを配属してきめ細かい対応を行っている。特にチューターは，成績優秀な寮生から留学生と同じクラスの学生が選ばれ，留学生が5年次に進級するまで日夜，学習および生活支援を行っている。その配置状況は（資料7-1-⑤-2）のようである。

また，留学生は3学年に入学するため，3学年から5学年に「外国人留学生特設科目」として，日本語と，数学，物理，各学科専門科目の基礎を開設している。これらのシラバスの例を（資料7-1-⑤-3，別添「シラバス」F-01～F08頁）に示す。

編入生に対しては，8月の合格発表後，本校の学習，生活に関する資料を送付，10月に行われる学園祭である「高専祭」に参加を呼びかけている。さらに，3月と4月に学習，生活に関するオリエンテーリングを実施している。その後も数学などを中心に担当教員から必要に応じて個別指導を行っている。

(資料7-1-⑤-1)

「平成17年度在籍留学生」

受入年度	学科・学年	氏名	国籍
15	環境都市工学科 5年	ダン サン ホアン DANG GIANG HOANG	ベトナム
	環境都市工学科 5年	モハト [◌] シャイリル ビン アブト [◌] カル マレク MOHD SYAIRIR BIN ABD. MALEK	マレーシア
16	電子情報工学科 4年	オマリ ミラ アヤコ OMARI MILLA AYAKO	ケニア
17	電子情報工学科 3年	エルテ [◌] ネビ [◌] レグ [◌] ムンクハト ERDENEBILEG MUNKHBA T	モンゴル
	物質工学科 3年	マセト [◌] ペドロ イヴォ ラゲ デ MACEDO PEDRO IVO LAGE DE	ブラジル
	物質工学科 3年	モハト [◌] アリフ ビン モハト [◌] ノル MOHD ARIF BIN MOHD NOR	マレーシア
	機械工学科 3年	モハト [◌] スルカルナインサム ビン ハッサン MOHD ZULKARNAINSAM BIN HASSAN	マレーシア
18	電子情報工学科 3年	アマルサナ ダヴァスレン AMARSANAA DAVAASUREN	モンゴル

(出典 学生課)

(資料7-1-⑤-2)

「チューターの配置」

学年	留 学 生	チューター
4年	オマリ	山崎 友貴
3年	ズル	大田 尊也
	ムンクバト	刀上 光
	ペドロ	北野 直紀
	アリフ	葛葉 光洋

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

留学生に対して、チューター制や、留学生特設科目により、学習支援体制が十分とられている。また、編入学生に対しても入学前の各学科の指導やオリエンテーションが十分取られている。また、入学後も担任を中心に学習に対する支援を十分行っていると言える。

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校学生準則第6章学生会(資料7-1-⑥-1, 別添「学生便覧」105頁)の第23条によれば, 学生会は学生全員で構成し, 第28条によれば, 校長への届出により, クラブ活動を行うこととなっている。学校としては学生主事を中心にサポートし, すべてのクラブ活動に指導教員を1名以上配置している。

現在クラブ活動を行っている, 部・同好会を(資料7-1-⑥-2, 別添「学校要覧」41頁)に示す。また, これらのクラブ活動の指導教員一覧を(前出資料5-4-②-6, 別添「学生便覧」53頁)に示す。

このようなクラブ活動の運営金は学生会活動として行われる。平成16年度決算書を(資料7-1-⑥-4)に示す。

(資料7-1-⑥-4)

「平成16年度 部活動決算」

クラブ名	決算額(円)	その他
硬式テニス	408,849	
サッカー	220,550	
ソフトテニス	81,880	
空手	360,000	
ブラスバンド	209,000	
バドミントン	340,000	
水泳	78,470	
卓球	317,210	
ハンドボール	67,600	
ソフトボール	71,055	
男子バスケットボール	379,500	
男子バレー	199,520	
エレクトロメイキング	63,505	
女子バスケット	126,600	
陸上	183,890	
野球	468,800	
写真	9,556	
柔道	125,000	
ラグビー	265,965	
女子バレー	36,000	
剣道	138,500	
モダンミュージック	124,950	
少林寺拳法	65,000	
合計	4,341,400	

(出典 学生会)

また、これらの部活動補助の学生会活動全体における状況を（資料7-1-⑥-5）に示す。

（資料7-1-⑥-5）

「平成16年度学生会決算」

収入の部	学生会費（998人）	6,986,000円
	教育後援会費	1,000,000円
	前年度繰越金	1,249,618円
	計	9,235,618円
支出の部	高専祭補助	2,000,000円
	部活動補助	4,458,120円
	体育委員会費	650,000円
	文化委員会費	50,000円
	青塔作成費	400,000円
	厚生委員会活動費	10,000円
	広報活動費	10,000円
	学生会活動費	250,000円
	繰越金	1,407,498円
	計	9,235,618円

（出典 学生会）

これらの各クラブの活動の実績として、体育系として、サッカー部また、文化系として英語部の最近10年の活動の記録を（資料7-1-⑥-6）に示す。

(資料 7-1-⑥-6)

「クラブ活動実績例」

1. サッカー部

この 10 年間の主なできごとは以下の通りである。

平成 8 年 第 1 回学生リーグ 3 勝 1 敗で福井工大、福井大学と勝ち点で並ぶが得失点差で 3 位

平成 9 年 全国大会主管全国 1 回戦：福井高専 0 - 1 八戸高専 DF 秦庸一郎が優秀選手に選ばれる

平成 10 年 北陸地区高専大会優勝

平成 13 年 北信越大会 2 位で全国大会出場 全国 1 回戦：福井高専 2 - 3 徳山高専

平成 14 年 北陸地区高専大会優勝 北信越大会 2 位で全国大会出場 全国 1 回戦：福井高専 3 - 2 鶴岡高専 全国 2 回戦：福井高専 1 - 4 鹿児島高専 FW 横江川恵太が優秀選手に選ばれる

この 10 年間で特筆すべきは、平成 8 年度から福井工業大学、福井大学、福井医科大学（現、福井大学医学部）、福井県立大学と福井高専の 5 校による福井県学生サッカーリーグが始まったことと、平成 9 年度の全国大会を本校が主管したことであろう。福井県学生サッカーリーグについては、第 1 回大会で、第 1 節の福井工大には大敗を喫したが、その後 3 つの大学チームを連破し 3 勝 1 敗の成績で 3 位となった。この大会は現在も続いているが、本校サッカー部の強化のみならず、福井県の学生サッカーのレベルアップに大きく寄与するものである。

また、平成 9 年度の全国大会を主管するに当たっては、同年 5 月に奈良高専への遠征を初めて行い、全国大会への強化を行った。全国大会では 1 回戦で惜しくも敗れたが、運営とともに、決勝戦まで観戦できたことは、部員にとって貴重な体験であったと思う。このときの 1 年生が、平成 13 年には 5 年生として北信越大会で 2 位となり全国大会に出場している。続く平成 14 年には、北陸地区高専大会優勝と 2 年連続の全国大会出場を果たし、念願の全国大会初勝利を挙げている。

この間、舞鶴高専をはじめ、奈良高専、岐阜高専、豊田高専との交歓試合（遠征）を行ってきた。このような他高専との交流、県内大学との試合、また各種大会の運営などを通して、サッカーのレベルが向上するとともに、部員一人ひとりが目標を持ち、クラブ活動に取り組めるようになってきている。

2. 英語部

英語部は本校創設以来続いている部である。ここ十年間の主な活動としては、放課後に LL（語学演習室）で集って英会話練習を行ったり、洋画の視聴や英語の歌を聴いてリスニング練習を行っている。また、広く英語圏に関する本を読んで異文化理解に関する一般的な知識を広めている。オーストラリアへ留学した部員が留学の経験談をしたこともある。学生中心の活動ではあるが、外国人教師（が顧問のときには、学生と一緒に会話練習を行うこともあった。校外活動としては、富山商船高等専門学校が主催する北陸地区の英語弁論大会に参加し、平成 10 年度と 15 年度の大会で入賞した。

富山商船高等専門学校英語スピーチコンテスト受賞者

○第 4 回（平成 10 年 11 月 14 日（土）実施） 一般部門第 1 位 三原有真（4C 当時）

○第 9 回（平成 15 年 11 月 1 日（土）実施） 審査員特別賞 平泉直美（5B 当時）

（出典 福井工業高等専門学校 40 年記念誌）

また、本校では、NHKアイデア対決ロボットコンテストに参加希望する学生に対して、学校全体が支援している。これまで15年間に最高賞である、ロボコン大賞を2度受賞し全国でも屈指の強豪校となっている。これまでの戦績を（資料7-1-⑥-7）に示す。

（資料7-1-⑥-7）

「最近15年間のアイデア対決ロボットコンテストの結果」

年度	テーマ	マシン名	地区大会成績	全国大会成績
1988	乾電池カー・スピードレース	-	-	-
1989	オクトパス・フットボール	-	-	-
1990	ニュートロン・スター	こがね虫君 アクセクドージャー号	-	ベスト8
1991	ホットタワー	-	1回戦敗退	-
1992	ミステリーサークル	楽多2 九頭竜	-	-
1993	ステップダンス	ルーキーデルタ ちかっぺ福井	ベスト4、優秀賞	ロボコン大賞
1994	スペースフライヤー	またまたちかっぺ福井号 ツイン-D	アイデア賞 ベスト8	アイデア倒れ賞
1995	ドリームタワー	ひってやべって福井号 W・S・M	優秀賞 1回戦敗退	1回戦敗退
1996	テクノカウボーイ	ドラゴンフライ ヘイ！カウボーイ	アイデア賞 2回戦敗退	2回戦敗退
1997	花開蝶未	G.G.ウォーカー 花コプター	優勝 技術賞	ロボコン大賞
1998	生命上陸	シーカイト 念ずれば花開く2号	アイデア賞 2回戦敗退	-
1999	JUMP TO THE FUTURE	ドリームジャンプ 越前インパルス	省エネルギーセンター賞 2回戦敗退	-
2000	ミレニアム・メッセージ	ディノ・クライマー SPACE-LAB	パフォーマンス賞 2回戦敗退	特別賞
2001	HAPPY BIRTHDAY 39	タワーフォー くらぼ2001	優勝 1回戦敗退	ベスト4
2002	プロジェクトBOX	バランスボックス ottii	1回戦敗退 3回戦敗退	HONDA賞
2003	鼎(KANAE)	テトラ・スコピー ラティスアーム	優勝 準優勝	ベスト8
2004	マーズラッシュ	キャリアパー 10 seconds	準優勝 2回戦敗退	3回戦敗退

（出典 ウェブページ）

（分析結果とその根拠理由）

学生のクラブ活動や学生会の課外活動に対する支援は整備され、機能していると言える。その根拠理由としては、学生の課外活動に学校全体として取り組み、全教員のほとんどが何らかの形で学生の課外活動を支援している。

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

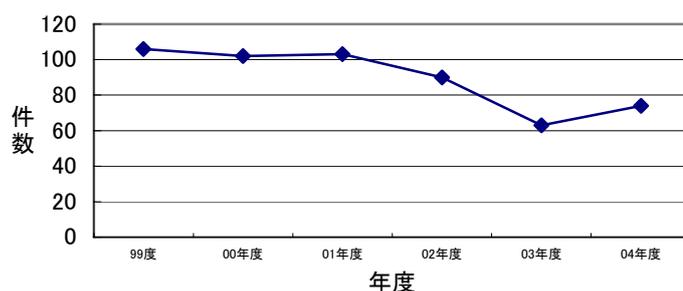
（観点に係る状況）

学生の生活、経済面での指導・相談・助言は直接には各担任が担当し、問題が生じた場合は学生主事を中心に補導委員全体で支援を行う体制が出来ている。専攻科では、各専攻の2名の専攻科主任が学生の指導や助言にあっている。また、近年、悩みを持つ学生が増加しているが、昭和55年度に学生相談が開始され、昭和56年から現在の学生相談室が開設された。相談室の組織としては、相談

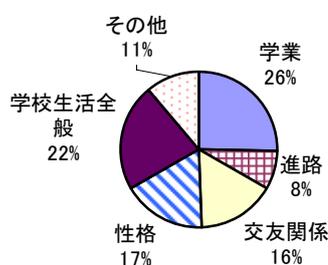
員4名と1名の非常勤カウンセラーとなっている。相談員は昼食時間と放課後相談室に待機し相談に応じている。また、専門カウンセラーが月2回～3回来校し、学生の悩みの相談に当たっている。保健室には専任の看護師を常駐し、日常の病気、怪我などの治療にあたっているが、相談室以外にも保健室でメンタルヘルスクエアを求める学生も多い。(資料7-2-①-1)は、最近の相談室相談件数と相談内容を示している。

(資料7-2-①-1)

「学生相談室利用学生数と相談内容」



学生相談室利用者



相談内容 (平成16年度)

(出典 学生課)

さらに、毎年、厚生補導関係教職員を中心にほぼ全員の教員が参加して、学生の悩みに関するFDを開催し、その報告書を刊行している。

(分析結果とその根拠理由)

学生の生活に関する指導・助言は本校が最も重点を置いているところであり、体制を作り、十分機能している。根拠と理由は前記のように担任制度があり、きめ細かい指導を行っている。休み時間、放課後にはほとんどの担任が担当のクラスへ出かけ、学生とコンタクトをとり、情報収集を行うとともに問題があれば、担当主事に連絡を行い、処理を行っている。

観点7-2-②： 特別な支援が必要な者（例えば、留学生、障害を持つ学生等が考えられる。）がいる場合には、生活面での支援が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

現在、身体に障害を持つ学生は在籍しないが、施設整備委員会において、校内のバリアフリー化を常に検討している。

留学生については、留学生委員会を設置して、留学生の学習生活・日常生活の支援に当たっている。また、上記のようにチューター制をとり、各留学生と同じクラス寮生の学生がチューターとなり、各留学生の学習・生活両面の相談にあたっている。（資料7-2-②-1）は、留学生全員参加のツアー及び部活動の様子である。

（資料7-2-②-1）

「留学生支援」



留学生ツアー（そば道場での体験）



合気道練習のケニアからの留学生

（出典 学生課）

（分析結果とその根拠理由）

身体に障害を持つ学生は現在、在籍しないが、留学生については、学習・生活面について手厚い支援を行っている。最近の留学生はほとんどが本校卒業後、大学に進学している。

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

自宅が遠方で通学が困難な学生のために、学生寮を設置している。入寮学生数の最近の推移と寮棟の一つを(資料7-2-③-1)に示す。

(資料7-2-③-1)

「寮生数の推移」

年度	男子		女子		専攻科		合計	充足率
	定員	人数	定員	人数	男子	女子		
平成7	194	186	46	31			217	90.4
8	194	188	46	36			224	93.3
9	194	190	46	39			229	95.4
10	194	187	46	34	4		225	93.7
11	194	187	46	34	4	1	226	94.1
12	194	188	46	37	4		229	95.4
13	194	190	46	42	2		234	97.5
14	194	189	46	44	1		234	97.5
15	194	193	46	42			235	97.9
16	194	193	46	43			236	98.3



留学生も入寮する「南寮」

(出典 学生課)

学寮については、寮務主事が中心となり、学寮運営委員会、寮務主事団、学生課寮務係がその運営にあっている。学寮は学校敷地内にあることから、学習、部活動に便利がよく、入寮希望者が多い。学寮運営委員会では、引き続き、居住環境の整備と学生寮運営に対する寮生・教職員の協力体制の充実を図っている。

(分析結果とその根拠理由)

根拠として、次のことがあげられる。(1) 居住環境の整備として、寮内施設の点検と整備をおこなっている。(2) 学生寮運営に対して寮生・教職員の協力体制が充実している。(3) 寮生による、寮生会を組織し、寮務担当教職員と協力体制をとって、寮生活の充実化を検討している。

観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

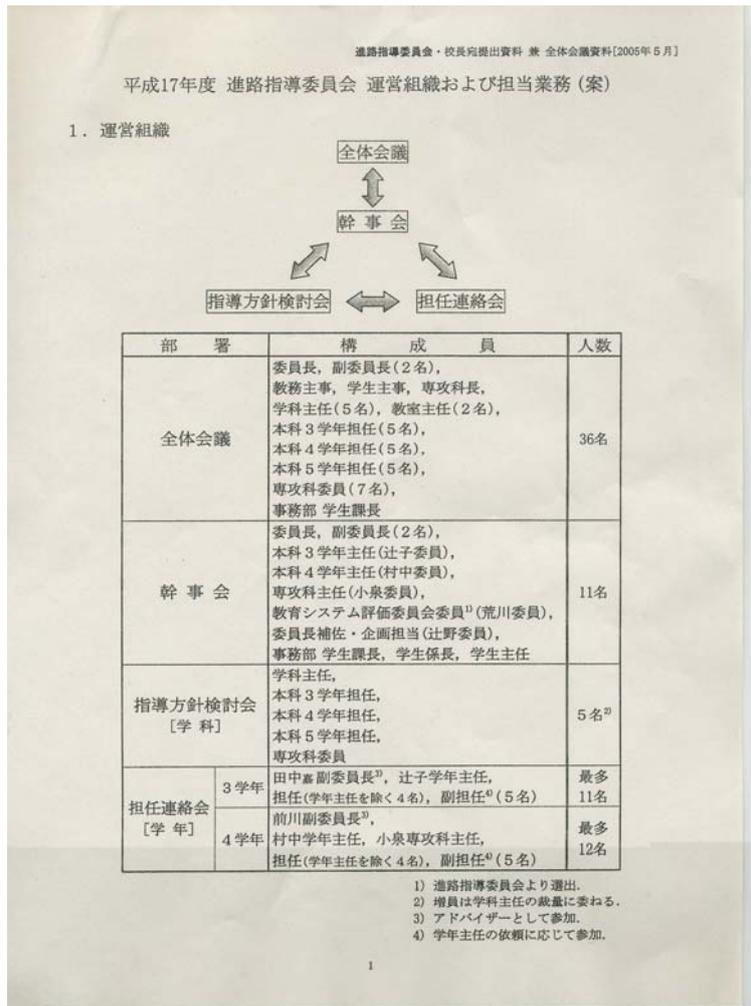
(観点に係る状況)

専攻科設置以来、専攻科と本科の4年生で実施している、校外研修と専攻科インターンシップなどの情報を調整するためと、さらに学生の就職・進学を支援するため、進路指導委員会を設置している。進路指導委員会は委員長、副委員長(2名)、教務主事、学生主事、専攻科長、学科・教室主任(7名)、本科3学年～5学年担任(15名)、専攻科委員(7名)、学生課長の計36名から構成され、その主たる行動目標は、学生の進路に関する教員相互の情報、意見交換を密にして実効ある進路指導を展開することにある。全体会議、幹事会、指導方針検討会、などで、方針を決め、実際に学生と接する各担任との連絡も密にしている。この運営組織を(資料7-2-④-1)に示す。また、進路指導室に担当職員2名を配置し、進路指導委員会とともに学生の進路指導を支援している。

最近の就職・進学状況を(資料7-2-④-2)に示す。進路指導委員会によって、低学年からの進路指導を行うようになり、高学年に対しても担任を通して支援を行っている。

(資料7-2-④-1)

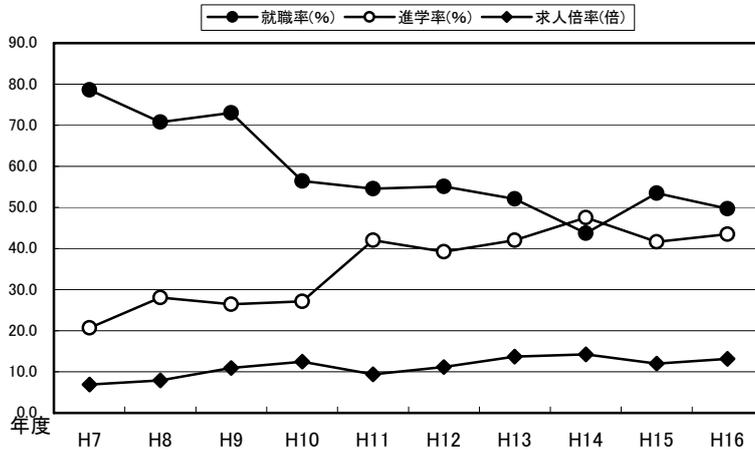
「進路指導委員会運営組織と担当業務」



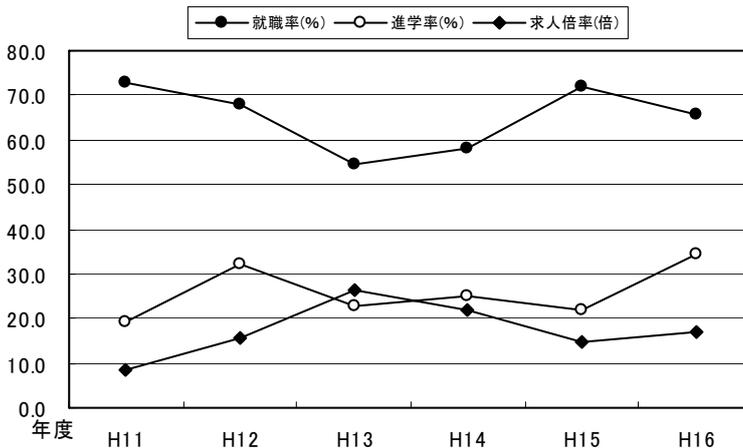
(出典 学生課)

(資料 7-2-④-2)

「最近 6 年間の本科・専攻科の就職・進学状況」



最近 6 年間の本科の就職・進学状況



最近 6 年間の専攻科の就職・進学状況

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

学生の進路全体に対して進路指導委員会が中心になって指導にあたっている。就職・進学だけでなく、進路指導委員会では校外実習・インターンシップも学校としての窓口となっており、学外者にとっても求人業務がやりやすい環境となっている。また、最近、進学する学生が増えているが、進学する学生にも進路指導室を通じて進学情報を伝えている。これらのことより、学生の進路指導が一元化され、組織で指導を行っていると言える。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学生の学習活動、生活に対する支援は優れていると言える。また、留学生に対する支援も充実している。

(改善を要する点)

校舎の改修が遅れており、学生支援アンケートでも多くの学生が夏季のクラスの高温・高湿の環境の改善を望んでいる。現在の施設の使用管理状況の施設マネジメントを行い、これら必要な施設改修を要求中である。

(3) 基準7の自己評価の概要

学生に対する学習のガイダンスは最初の授業、あるいはそれ以降に的確に行っている。また、自主学習スペースとして、図書館、総合情報処理センターを完備しているが、学生は教室でクラスメイトと語りながらの自主学習を好んでいるようである。

近年、資格取得を多くの学生が望んでいる。英語、電気、土木、情報関係などの資格試験受験に対する支援を行っている。また、そのニーズの把握に努めている。

学生の施設に対する要望調査も行っており、現在の学生の要望は教室の冷房設備の充実と学生駐車場の整備である。これらについては、自助努力と今後の改修で改善されると考えられる。

また、留学と資格取得を望む学生が増加しているため、現在の制度の他に、交換留学制度を準備中である。資格取得を望む学生に対しては、さらに、資格取得のための支援を行う。特別な支援を必要とする学生に対しては、留学生委員会などを設置して支援にあたっているが、今後とも努力して行きたい。

学生のクラブ活動、課外活動は支援体制が充実している。学生寮が設置され、学校全体で運営にあっている。また、学生の卒業後の進路に対する支援としては、進路指導委員会を設置して一元化して指導にあっている。

これらにより、学生が学習しやすい環境と制度を作りたい。また、留学生、編入学生などに対しては特別な学習支援を引き続き行いたい。